

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	211人	社会	212人	数学	211人
	理科	211人	英語	212人		

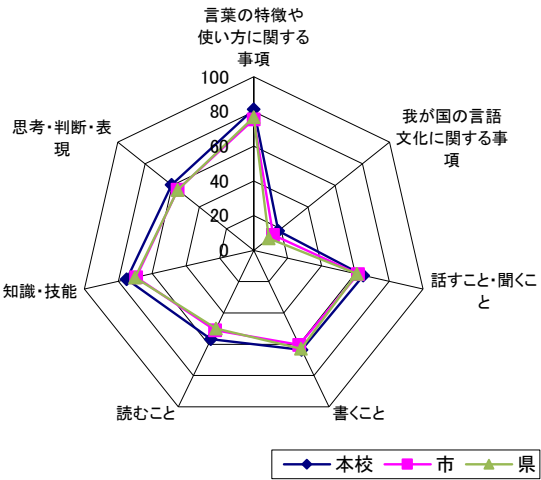
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	81.3	75.5	76.7
	我が国の言語文化に関する事項	18.0	14.3	11.2
	話すこと・聞くこと	64.8	61.6	60.9
	書くこと	63.6	60.4	62.9
	読むこと	56.7	51.0	49.9
観点	知識・技能	75.0	69.4	70.1
	思考・判断・表現	60.5	56.0	55.9



★指導の工夫と改善

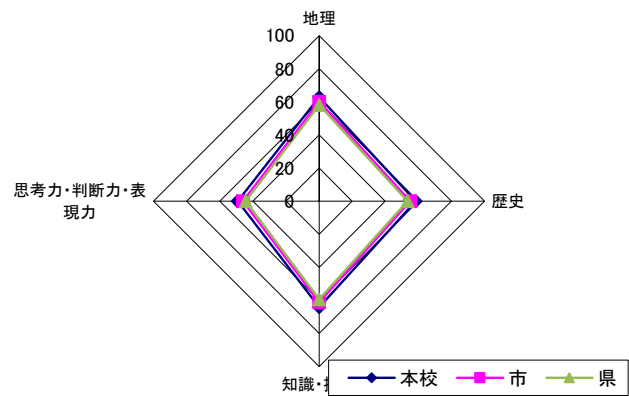
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市・県の平均と比べ、非常に高い。 ○漢字の読みに関しては、3問中2問が全員正答であり、漢字の読み書きの力がよく定着している。漢字小テストを継続的に行っていることが効果的であると考えられる。 ●語彙力が不足していたり、語句の意味を知らなかったりすることに課題が見られる。	・今後も漢字の小テストを継続して行い、苦手とする漢字や間違いやすい漢字がある場合には、漢字の部首や書き順など、さまざまな角度からの説明を加えていく。また、書写でも文字の形を意識して取り組ませる。 ・辞書を使って言葉を調べる学習や話や文章の内容に絡めて意味を確認する指導を行う。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市・県の平均と比べ、非常に高い。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す読み方がよく定着している。古文以外の単元に出てくる歴史的仮名遣いのときに、振り返って確認をしていることが定着に繋がっていると考えられる。	・今後も、古文の単元だけでなく、詩や短歌等の単元で歴史的仮名遣いに触れる場面があるときには、正しく読めるか確認をしたり、小テストを行ったりして、常に言語文化を意識させる。 ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すだけでなく、言葉の意味や現代の意味との違いも指導していきたい。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市・県の平均と比べ、高い。 ○自分の考えを相手に伝えるために有効な話の構成や順番を考えることができていく。説明的文章の単元で構成の確認をしていることが効果的であると考えられる。 ●相手の話の内容を正しく捉えることができていない。また、自分の考えと相手の考えを結び付け、互いの考えを反映した新たな思考をもつことが苦手である。	・説明をするときや自分の考えを伝えるときには、相手に納得してもらえるように、数値や体験、経験などの具体的な根拠を挙げる学習をしていく。 ・相手の話をよく聞き、相手が伝えたいことを正しく理解できるように、メモをしたり捉えた内容が違ってないか確認をしたりするように指導をする。
書くこと	平均正答率は、市・県の平均と比べ、高い。 ○自分の考えを明確に表現しようとすることはできる。意見文や感想文を書く学習をどの単元でも取り入れていることが結び付いていると思われる。 ●文字数を踏まえて文章を書くことが難しい。文字数から文章の構成を考え、どのくらいの内容が書けるのかを事前に検討することが定着していない。	・今後も単元ごとに初発の感想やまとめの感想、意見文など、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。また、自分の考えの根拠を具体的に書くことを意識させる。 ・条件作文を書く練習を行っていく。文字数が定められているときには、読み手が理解しやすく読みやすい構成メモを考えてから書くように指導をする。
読むこと	平均正答率は、市・県の平均と比べ、非常に高い。 ○情報と情報の関係や、場面と場面、場面と描写の結び付きを踏まえて内容を理解することができていく。段落ごとに内容を整理する指導が有効であったと考えられる。 ●文章の構成を正しく捉えることができていない。自分の考えを「書くこと」でも構成に関して理解できていないと考えられる。	・説明的文章を中心に、段落ごとの内容を捉える学習を行いながら、文章の構成について毎回復習をして確認をする。 ・基本的な構成を定着させ、構成の観点から文章の内容を読み取る練習をする。 ・文学的文章では、文章の描写と関連付けながら登場人物の人物像や心情の変化、登場人物同士の関係を中心に読み取らせる。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	62.9	60.1	58.1
	歴史	58.4	55.1	53.5
観点	知識・技能	64.1	61.1	59.3
	思考力・判断力・表現力	49.1	46.0	44.3



★指導の工夫と改善

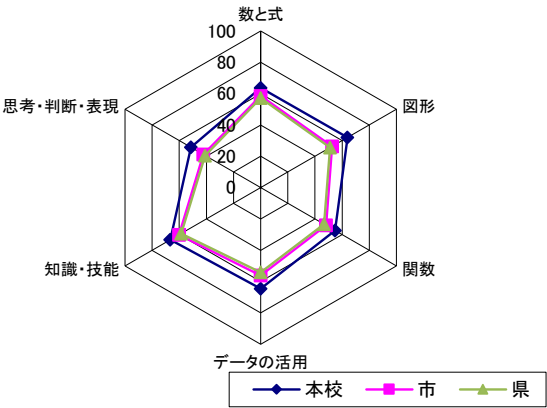
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	平均正答率は、知識・技能、思考力・判断力・表現力のどちらも、市の平均点より3点ほど高い。 ○三大洋や赤道の位置・排他的経済水域や国の領域の範囲や権限・三大宗教の特徴や分布については比較的よくできている。AIDリルやワーク・テスト対策プリント等を使って、一問一答形式の問題を解く機会や問題量が多いのではないかと推測できる。 ●同じ選択式の問題であっても、単純に語句を選ぶのではなく、説明文を選ぶような問題になると、正解率が下がる。記述式の問題を解く機会や問題量が少ないことで、選択式の問題であっても正しい答えを選べないのではないかと推測できる。	・日々の学習の中での一問一答形式の問題を解く量を確保し続けられるように、学校全体で取り組んでいる、AIDリルを使った朝の学習の時間を活用する。また、ワークやテスト対策プリントも活用して、問題量を確保する。 ・文章を書いて答えるような問題についても、解く機会を増やしてたくさん問題を解くことで、様々な問題に対応できるような知識を身に付けさせる。
歴史	平均正答率は、知識・技能、思考力・判断力・表現力のどちらも、市の平均点より3点ほど高い。また、地理とは違い、問題形式の違いによる正答率の高低はあまり見られない。 ○時代ごとの人々の生活の様子や時代背景を問うような問題は比較的点数が高い。歴史に興味を持っている生徒が多いだけでなく、なぜそのような出来事が起こったのか、というような背景に興味を持つ生徒が多いからだと考えられる。 ●文化についての問題の正解率は総じて低い。苦手としている生徒は多く、時代ごとの文化の特徴や代表作について覚えることができないと考える生徒が多いからだと考えられる。	・今までと同様、ただ重要事項を教えて覚えさせるだけではなく、時代背景や人々の様子について興味を持てるような授業を展開する。 ・文化については、まずは子どもたちから「文化こそただ覚えるだけ」というような意識を取り去らなければならない。こちらについても、授業の中でなぜこのような文化がその時代に起こったのか、文化の起こった背景のようなものを取り扱うことで、興味を持たせるようにする。 ・問題量の確保が必要なので、地理と同様、AIDリルやワークなどを使って、様々な形式の問題に対応できるように日々の学習に取り組ませるようにする。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	63.7	58.6	57.2
	図形	64.0	52.6	51.1
	関数	54.8	48.2	46.8
	データの活用	64.5	56.1	54.1
観点	知識・技能	66.6	60.2	58.6
	思考・判断・表現	51.5	42.3	40.9



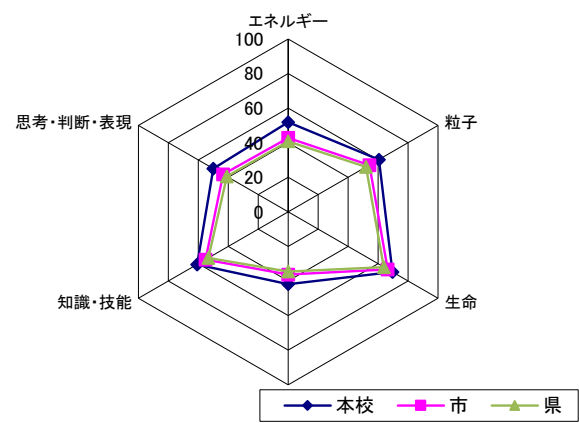
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○ 正答率は、市平均を5.1ポイント、県平均を6.5ポイント上回っている。 ● 1次式の減法、絶対値に関する設問の正答率が県平均ほどであった。また、素因数分解の問題では、県と市の平均を下回っており、誤答を選んでいる割合が約半数を占めていた。	○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの ・数の減法は理解できているが、そこに文字が入ると理解しにくい傾向にある。もう一度、文字式の計算方法について復習していく。 ・素因数分解については、素数や素因数などの意味を再確認する必要がある。
図形	○ 正答率は、市平均を11.4ポイント、県平均を12.9ポイント上回っている。 ● 全ての設問で市平均・県平均を上回っているが、おうぎ形に関する設問の正答率が31.8%と非常に低い。作図の正答率は約6割で高いとは言えない。また、空間図形において、側面積や体積を求める設問の正答率も低い。	・作図に関しては、作図の過程を、デジタル教科書などを用いてわかりやすくする必要がある。ベースになる、垂線や二等分線の作図をもう一度指導していく。 ・おうぎ形の弧の長さや面積の求め方を、円と関連付けさせて定着させていく。 ・空間図形の表面積・体積の求め方について、平面図形から導かれることを再確認させる。
関数	○ 正答率は、市平均を6.6ポイント、県平均を8ポイント上回っている。 ● 全ての設問で市平均・県平均を上回っており、関数の意味を理解できている生徒は約7割いる。また、比例の式から、比例のグラフをかく設問は、約半数の生徒が誤答を選んでいる。求め方を説明する設問の正答率が29.4%と非常に低くなっている。	・関数の意味を理解することは非常に重要であるため、関数であるものそうでないものの、具体例を授業の中で取り上げる。 ・関数のグラフについては、ソフトなどを用いて、視覚的に示すことで理解を促していく。また、式と表とグラフを関連付けて指導していく。 ・説明する力については、授業の中で対話できる場面を取り入れ、少しずつ身に付けさせていく。
データの活用	○ 正答率は、市平均を8.4ポイント、県平均を10.4ポイント上回っている。 ● 全ての設問で市平均・県平均を上回っているが、説明する設問の正答率が約5割であり、無回答が約3割あった。代表値に関する設問の正答率が約6割とそこまで高くない。	・代表値の意味と使い方を理解させる。また、度数分布表やヒストグラムを完成させる際には、データを正確に処理する指導もしていく。 ・関数同様、説明する設問に弱い傾向があるので、データの特徴を捉え、自分なりの考えをまとめ、説明する機会を設けていく。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	51.9	42.8	40.8
	粒子	60.5	54.2	52.0
	生命	69.6	66.4	63.8
	地球	41.8	36.2	34.5
観点	知識・技能	60.8	55.2	53.3
	思考・判断・表現	50.1	43.5	41.0



★指導の工夫と改善

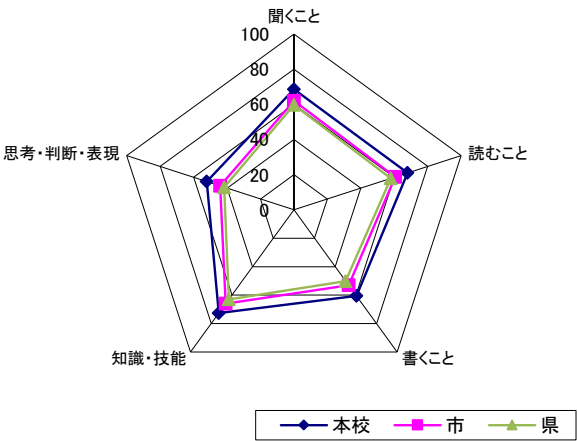
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○正答率は、市平均を9.1ポイント、県平均を11.1ポイント上回っている。特に「スクリーンに映っている像を選ぶ」に関する正答率は、県平均より、15.5ポイント上回っている。 ●「2つのばねの長さが等しくなるときのばねに加えた力を求める」で県平均より上回っているものの、正答率は22.23%と低い。	・多くの生徒は観察・実験の結果を分析し、解釈するための言語活動に意欲的に取り組んでいる。事物・現象に関わる具体的な体験を通して、比較等を行い問題を見いだすなどの問題解決の活動を経て言葉の意味を理解し、科学的な概念を形成する機会を多くつくる。 ・力の大きさとばねののびの関係を計算し、グラフ化することはできているが、その事象の理解は不十分である。振り返りの時間をつくることで、科学的な言葉や概念を用いて考えたり、説明したりする活動を増やし、知識の向上を図る。
粒子	○正答率は、市平均を6.3ポイント、県平均を8.5ポイント上回っている。特に二酸化炭素と酸素を特定できる操作を選ぶ」に関する正答率は、県平均より、10.5ポイント上回っている。 ●「塩化ナトリウム水溶液をしばらく放置したあとの粒子のモデルを選ぶ」で正答率は0.2%と県平均より下回っている。	・実験を通して実験器具の操作方法、注意事項を正しく習得させる。 ・溶解度曲線のグラフの見方や活用の仕方を身につけさせ、再結晶の析出量の計算は最終的には減法である点を強調しながら説明し、練習問題に繰り返し取り組ませることで基礎基本の定着を図る。 ・物質は粒子でできているという粒子概念を持たせられるよう、具体例をICT機器を用いて視覚的に伝えるなど、印象に残り定着するような工夫をする。
生命	○正答率は、市平均を3.2ポイント、県平均を5.8ポイント上回っている。特に「昆虫類ではない動物を選ぶ」に関する正答率は、県平均より、2ポイント上回っている。 ●「卵生の名称を答える」で正答率は3.2%と低い。	・重要語句や基礎・基本的な内容などの既習事項から考えを深める活動を多く取り入れる。 ・観察・実験結果を踏まえて何が言えるかということを、実際の実験・観察後の考察や振り返りで記述、図示させ、考えさせる場面を意図的に増やし、応用力や思考力の向上を図る。
地球	○正答率は、市平均を5.6ポイント、県平均を9.1ポイント上回っている。特に「P波の速さを求める」に関する正答率は、県平均より、18.6ポイント上回っている。 ●「震源からの距離を選び選んだ理由を答える」で、県平均より上回っているものの、正答率は14.7%と低い。	・地震の速さと震源からの距離の関係を計算して表すことができるが、その事象の理解は不十分である。振り返りの時間をつくることで、科学的な言葉や概念を用いて考えたり、説明したりする活動を増やし、知識の向上を図る。 ・地層の重なり方、広がり方についての規則性を見いだして理解させるために、映像や資料を用いて離れた地点の幾つかの地層と剥離標本を比較する等問題を見だし、火山灰層や砂層などを手掛かりに解決させる授業を展開していく。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	68.6	62.0	59.7
	読むこと	68.0	60.6	58.0
	書くこと	60.6	53.1	50.1
観点	知識・技能	72.6	66.0	63.0
	思考・判断・表現	52.1	44.1	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○正答率は県平均を8.9ポイント、市平均を6.6ポイント上回っている。特に「対話の内容を聞き取り、適切に回答しているものを選ぶ」に関する設問の正答率は市平均、県平均ともに大きく上回っている。 ●「英文の概要を聞き取り、適切な写真の順番を選ぶ。」の正答率が、他の項目と比較しても県との差があまりなかった。	・授業において教師がほぼ英語で指示をだせるようにすることにより、英語を聞き理解する能力を育成したい。 ・複数の絵をもとにリスニングをする機会が少ないので生徒がリスニングをしながら思考し判断することができるような教材を使用する。
読むこと	○正答率は県平均を10ポイント、市平均を2.6ポイント上回っている。特に「対話から必要な情報を読み取り、適切な情報を選ぶ」問題では県よりも10ポイント以上正答率が高くなっている。 ●本文と資料を関連させて読み取る問題が、本文の内容を直接読み取る問題と比較しても10ポイント以上正答率が低い。	・生徒が本文と資料の関連を把握できるように、グラフ等の資料の読み取りの前に教師がたくさんの情報を生徒インプットしたり、生徒がその情報をもとに内容を理解できる活動を取り入れたい。 ・生徒同士で教え合いの機会を今まで以上に増やし、自信をもって深い思考につながるように支援したい。
書くこと	○正答率は県平均を10.5ポイント、市平均を7.5ポイント上回っている。特に「英文を正しい語順で書く」、「対話の流れに合った英文を書く。」、「つながりのある英文を書く。」の正答率は県と比較して10ポイント以上も正答率が高い。 ●疑問詞を使って相手に質問する問題では、県平均と市平均ともに上回っているものの、他の項目に比べて著しく正答率が低い。	・授業中の様子を見ても、疑問詞を使用した教師の発問に対しての生徒の反応や理解度は高くはない傾向にある。教師側の使用頻度を高くし、まずは耳で疑問詞に対して慣れを作っていくたい。 ・生徒同士のコミュニケーションで生徒同士が疑問詞を用いた＋1クエスチョンができるような活動に取り組ませる。 ・英語の語順や文法のきまりをしっかりと理解させることで、英作文の能力を向上させたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○本校の肯定的回答割合が9割を上回っている項目は、
「家で、学校の宿題をしている」
「学校の宿題の量はちょうどよいと思う」
「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」
「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」
「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」
「授業を集中して受けている」
「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」
「学級活動の時間に、友達同士で話し合ってクラスのきまりなどを決めていると思う」
「学校のきまりを守っている」
「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」
「毎日、朝食を食べている」
「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」
「人と話すことは楽しい」
「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」
○「家で、学校の授業の予習をしている」の肯定的回答は県平均より20.3ポイント、市平均より19.9ポイント上回っている。家庭で授業の準備をしてから授業に臨んでいる生徒が多い。
○「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」の肯定的回答は県平均より5.7ポイント、市平均より7.0ポイント上回っている。また、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答は県平均より10.1ポイント、市平均より8.5ポイント上回っている。テストの振り返りをもとに学習内容を考え、主体的に学習に取り組むことができている。
●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の肯定的回答は県平均より8.2ポイント、市平均より7.7ポイント下回っている。また、「自分には、よいところがあると思う」の肯定的回答は県平均より7.8ポイント、市平均より8.2ポイント下回っている。自己肯定感が高まるような声掛けを日々、行っていきたい。
●「将来の夢や目標をもっている」の肯定的割合は県平均より10.2ポイント、市平均より7.4ポイント下回っている。様々な職種の方の講話を聴く「ドリームデザイン教室」や宮っ子チャレンジウィークでの事前事後活動など、キャリア教育を充実させていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
(1)学習規律の徹底	・地域学校園で取り組む「学習の約束」の実践 ・各教科における授業の約束の設定と指導	・生徒達は学校の決まりを守り、学習に対して自分から取り組んでいる生徒が多いことが結果から読み取れる。
(2)基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着	・各教科における基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着 ・身に付けるべき学習内容の確実な習得を目指す、単元や題材ごとに学習内容を復習させる場の設定	・「授業の内容がよく分かりますか。」という質問(75～79)では、教科に多少の差は生じているものの、全てにおいて肯定的割合が多いことから、基礎基本の定着の様子が見て取れる。また、家庭で学校や塾の宿題以外に自分で考えた学習に取り組んでいる生徒が多く(質問6)、県のポイントを10ポイント上回っている。そのことから、生徒が自主的に考えた家庭学習に取り組み、基礎基本の定着に努めていることがわかる。
(3)主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善	・授業の中で身に付けさせたい学習内容をまとめたり、学習内容や思考過程を振り返ったりする場の設定 ・互いを認め合い、協働して課題に取り組む学び合いの充実 ・授業力向上に向けた「一人一授業」及び授業研究会の実施・基礎的・基本的な知識の定着を目指すAIDリルの活用 ・タブレット端末を活用した個別最適化された学習の実践	・授業は、クラスの友達との間で話し合う活動を良く行っており(質問27)、考えを発表する機会が与えられている(質問26)ことがわかり、グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している生徒の肯定的割合も多くなっている。また、疑問や不思議に思うことはわかるまで調べたいと思っている生徒が多く、本やインターネットを用いて課題に取り組もうとしている姿勢がうかがえる。
(4)個に応じたきめ細やかな指導の充実	・発達の段階や各教科の実態に応じた適切な宿題や自主学習ノートの活用 ・学習支援「ステップアップ学習」の実施	・宿題に関する質問(13～15)では、肯定的回答が多く、生徒達の実態に合った適切な宿題だだされていることがわかる。 ・「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる(質問38)」では、県のポイントを上回っていることから、質問しやすい雰囲気づくりを心掛けながら、生徒達への個別支援に努めていることがわかる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「自分はクラスの人の役に立っていると思う」(質問41)「自分にはよいところがあると思う」(質問52)の肯定的回答が県、市より下回っている。このことから、自分の適性や能力を理解し、自信をもって活動に取り組むとともに、自己肯定感を高められるような活動を取り入れていくことが求められる。	生徒の自己理解を促進し、身に付けた知識や技能を生かせる活動の充実	学級活動・生徒会活動や学校行事を通して他者との関わりの中で自己理解を高めたり、自信をもって自分の考えを発表したりする活動に取り組める環境づくりや雰囲気づくりを行う。